

高齢者の摂食嚥下・栄養に関する 地域包括的ケアについての研究

研究代表者

戸原玄(東京医科歯科大学大学院高齢者歯科学分野・歯科医師)

研究分担者

山脇正永(京都府立医科大学総合医療・医学教育学講座・医師)

早坂信哉(東京都市大学人間科学部・医師)

川越正平(あおぞら診療所・医師)

吉野浩之(群馬大学教育学部障害児教育学講座・医師)

植田耕一郎(日本大学歯学部摂食機能療法学講座・歯科医師)

安細敏弘(九州歯科大学地域健康開発歯学分野・歯科医師)

渡邊裕(国立長寿医療研究センター口腔疾患研究部口腔感染制御研究室・歯科医師)

野原幹司(大阪大学歯学部附属病院・歯科医師)

千葉由美(横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻成人看護学・看護師)

研究協力者

新田國夫(新田クリニック・医師)

秋山正子(白十字訪問看護ステーション・看護師)

矢澤正人(東京都新宿区健康部副参事・歯科医師)

小山珠美(東名厚木病院・NPO法人口から食べる幸せを守る会・看護師)

淵野純子(新天本病院・NPO法人多摩胃腸ネットワーク・看護師)

荒井泰助(医療法人心和会新八千代病院長・医師)

白井淳子(東京都多摩立川保健所・歯科医師)

齊藤恵介(帝京大学医学部泌尿器・医師)他

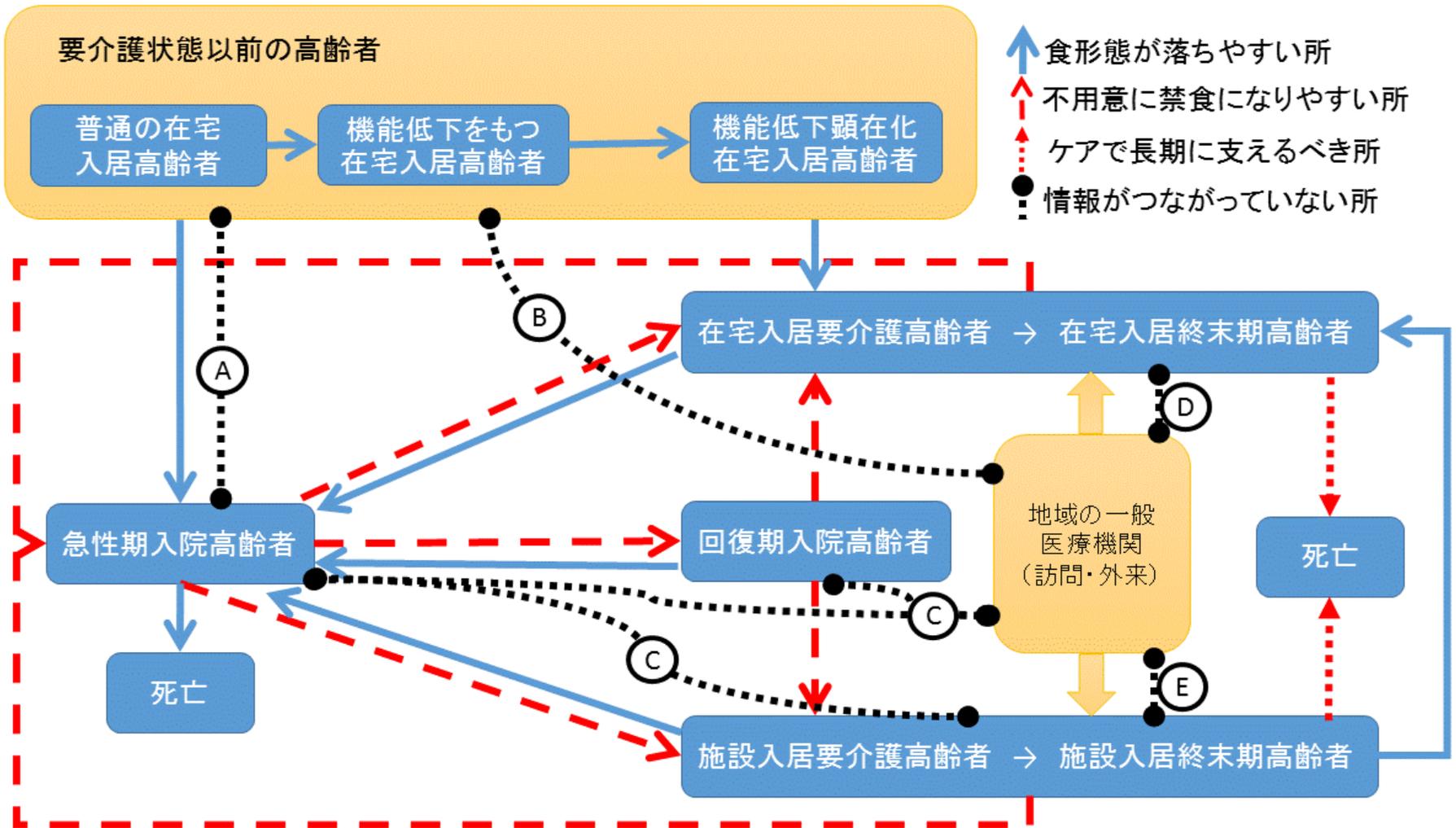
高齢者の摂食嚥下・栄養に関する 地域包括的ケアについての研究

高齢者の摂食嚥下への対応が重要だが有効資源が繋がらない
有効資源調査の全国調査は認められない

これらを背景として

- 高齢者の摂食嚥下・栄養に関する問題に対応できる地域資源を明らかにしてマッピング
 - 有効連携事例モデルを提示(ガイドブック作成)
 - 行政や病院、関連施設に連携の実態調査
 - 連携が十分でない地域に新たな連携を構築し実践させる(教育事業)
 - 軽度の摂食嚥下・栄養障害者の検診
- 地域住民の誤嚥予防や胃瘻難民の減少、地域医療介護の連携、当該医療過疎地域の明示と摂食嚥下の観点からの地域包括ケアのモデル提示につながる。
倫理審査は医科歯科大学より不要との通知、COIは分担からも確認済み。

高齢者の流れのイメージ



A: 軽度障害者と病院(入院時)

B: 軽度障害者と地域医療機関

C: 病院と地域(退院時の情報)

D・E: 地域在住障害者と地域医療機関

ロードマップ

1年目

① 医科診療所(有床・無床)・歯科診療所に対する簡易な医療資源アンケート調査

② 訪問看護ステーションに対する医療資源アンケート調査

③ 行政・保健所に対する有効事例の存在および新規連携事例希望アンケート調査
(こちらは遅延により二年目に移行した)

④ 有効な連携事例調査
(班員所属のNPOなどより拾い上げ可能)

⑤ 病院SWIに対する退院時外部医療機関への連携実態と連携希望有無アンケート調査

⑥ 施設に対する外部医療機関からの食支援実態と連携希望有無アンケート調査

⑦ 軽度嚥下障害者に対する嚥下機能検診表入手
(作成から入手に変更した)

2年目

⑧ 医療資源名簿・マップおよびホームページ作成と周知(配布から周知へ変更)
(主に行政、その他SW・施設へ)

⑨ (行政・保健所で)新たな連携事例をとりたいたいところと有効な連携事例のマッチング
(計画の遅延で幅を広げるためここでは行政に限らない)

⑩ 有効連携事例ガイドブックおよびホームページ作成と周知(配布から周知へ変更)
(主に行政、その他SW・施設へ)

⑥' 特養に対する外部医療機関からの食支援実態と連携希望有無アンケート調査
(1年目に行えなかったため2年目へ移行)

⑪ 他の地域における嚥下機能検診利用
(特定のから他のに変更した)

3年目

⑮ GIS(地理情報システム)を利用した医療資源名簿の地図解析(追加)

⑫ 行政向けの連携構築のための研修会開催
(グループワーク・見学実習を用いた新たな地域連携事例のバックアップから修正)

⑬ 病院SW・施設に対する医療資源名簿・マップおよびガイドブック活用の実証効果検証アンケート調査を実施

⑭ 嚥下機能検診の効果実証と検診表をガイドブック、ホームページへ追加

摂食嚥下関連医療資源マップ

摂食嚥下関連医療資源マップ

厚生労働科学研究委託費長寿・障害総合研究事業
高齢者の摂食嚥下・栄養に関する地域包括的ケアについての研究

ご挨拶 | 医療機関一覧 | 研究レポート | リンク集 | 新着情報 | お問い合わせ | 連携お問い合わせ

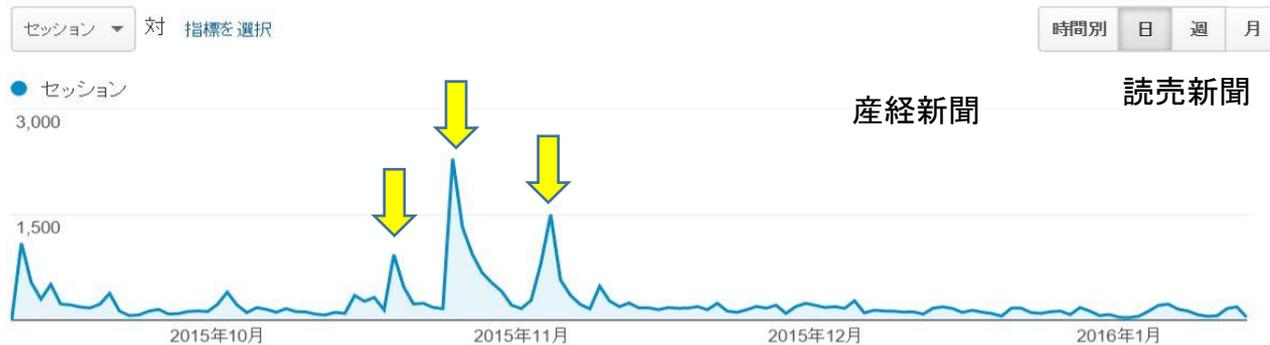
次の時代へつながる
医療、介護へ

研究レポート 一覧で見る 医療機関登録・更新フォーム

<http://www.swallowing.link/>

「完成から周知へ」 2016年1月14日現在1099施設登録.

- 2015年8月10日: 開設
- 2015年9月15日: 公開
- 2015年9月18日: 摂食嚥下リハ学会シンポ
- 2015年10月15日: 産経新聞
- 2015年10月16日: 日経メディカル
- 2015年10月19日: 読売新聞
- 2015年10月25日: NHKおはよう日本
- 2015年11月3日: 日本歯科新聞
- 2015年11月4日: 毎日新聞
- 2015年11月18日: 高齢者住宅新聞
- 2015年11月30日: 週刊医学界新聞等



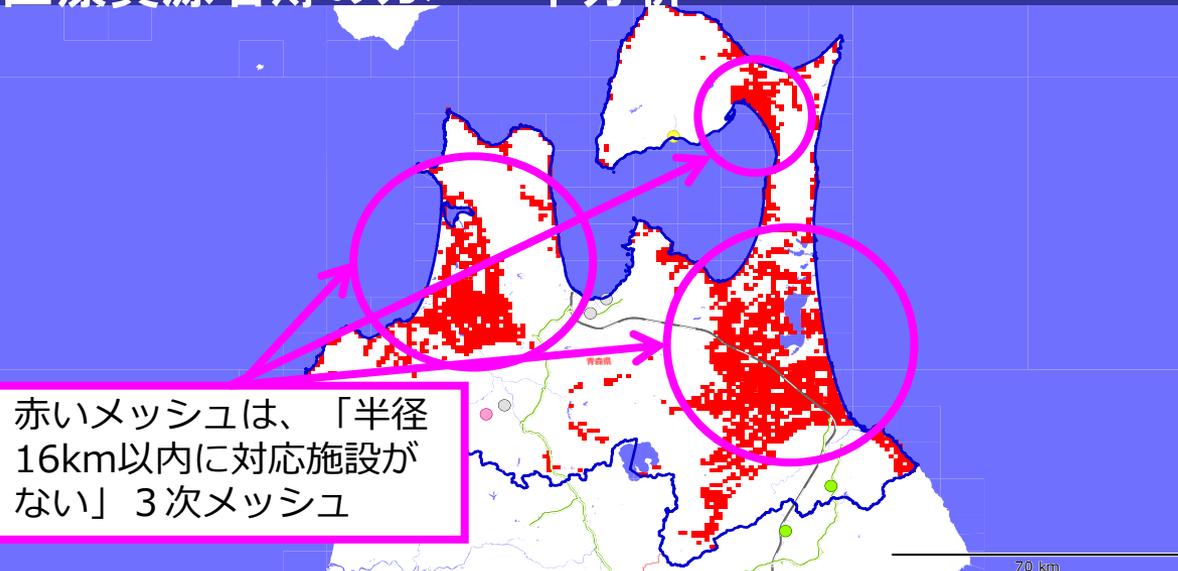
ウェブニュース
CBニュース
Yahooニュース
livedoor!ニュース等

リンク
 Peg Doctor's network
 日本摂食嚥下リハ学会
 日本老年歯科医学会
 日本在宅医学会

東京都言語聴覚士会
 日本医療社会福祉協会
 東京都医療社会事業協会
 脳損傷による遷延性意識障がい者と家族の会「わかば」
 札幌市家族介護者支援の会等

GIS(地理情報システム)を利用した医療資源名簿の地図解析

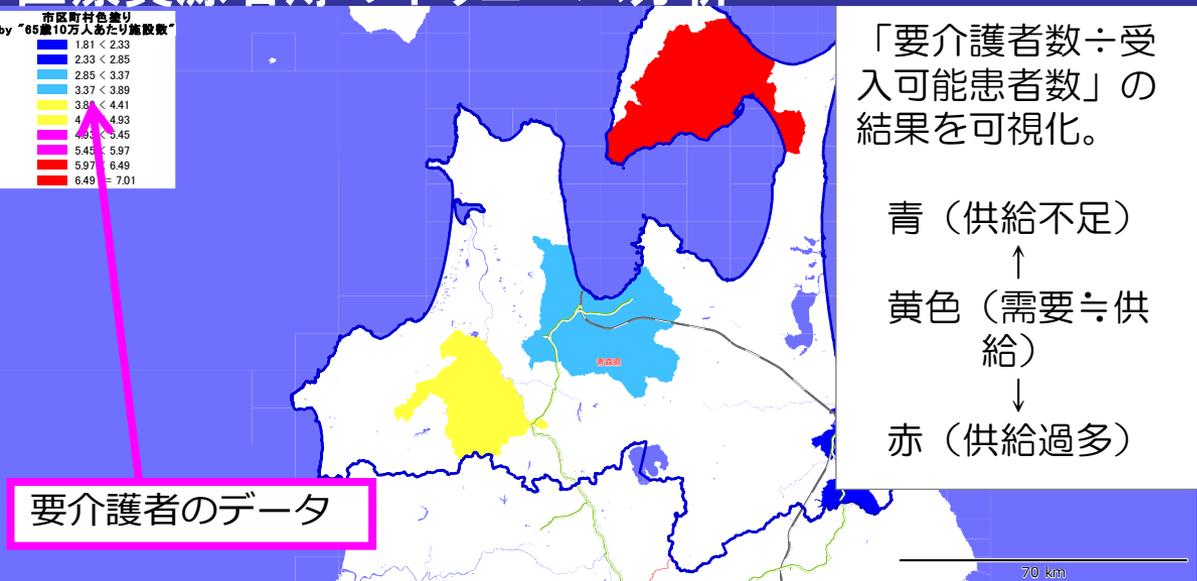
医療資源名簿のカバー率分析



地図分析により、嚙下難民(16km圏内に対応施設がないポイント)の分布を可視化

地図分析により、受入可能施設の過不足マップを作成

医療資源名簿のボリューム分析



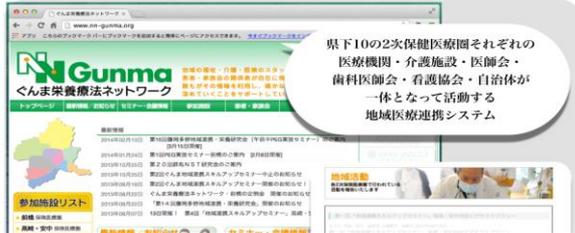
前年度までの研究で収集した医療資源名簿のデータを地図解析し、結果を全国47都道府県のマップ上に可視化する。遅延なく進行中である。2025年の高齢者の予測数を用いて、将来の受け入れ過不足予想の解析も進行中。

有効事例ガイドブック作成

合計16件の有効事例より原稿を収集してガイドブック。

病院:2件, 医科歯科クリニック:1件, 医科クリニック:1件, 歯科クリニック:5件
訪問看護ステーション:1件, 老健:1件, 医師会・歯科医師会:2件, その他:3件

地域医療ネットワークとの連携



機関病院と地域のネットワーク



在宅での多職種連携



保健所主催の協議会



機能評価主体の高齢者検診



高齢者料理教室



摂食嚥下に特化した歯科医院

連携の指針となる“設計図”もサイトに掲載

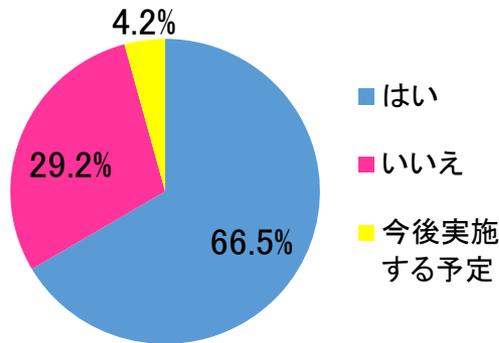
行政・保健所に対する地域連携状況調査

全国行政歯科技術職連絡会
回答数212名(回収率30.4%)

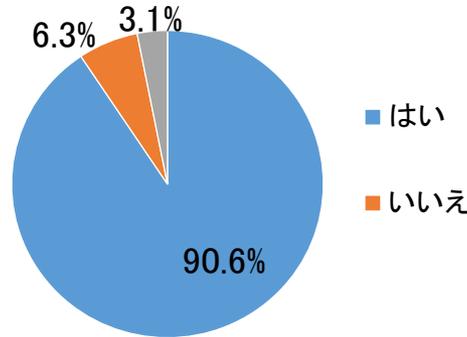
全国都道府県(保健主管部長あて)
回答数32都道府県(回収率70.0%)

全国保健所
回答数350(回収率60.0%)

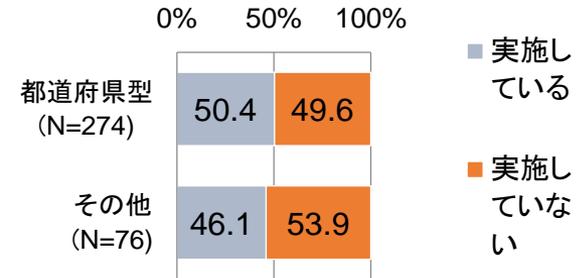
自身の部署で摂食嚥下機能支援に係る事業を実施しているか



摂食嚥下機能支援の取組の有無



摂食・嚥下機能支援に係る事業実施の有無



連携構築のための研修会開催



本研究班の報告書でも傷害している、江戸川区内でとられている有効な連携事例を主として町田市市の行政、歯科医師会に対面で情報提供。



上写真: 行政と各専門職種との会議体
下写真: 胃瘻だったがリハビリにより回転寿司に行くことができた患者さん



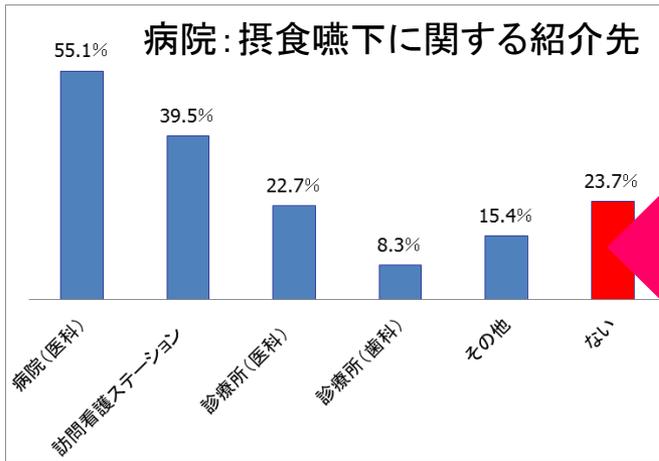
2016年7月7日町田市市役所より4名、歯科医師会より3名と当研究班員により会議が行われた。
その他、2016年12月3日多摩胃瘻ネットワークにて情報提供の研修会開催。

病院と地域，医療と介護の連携実態調査

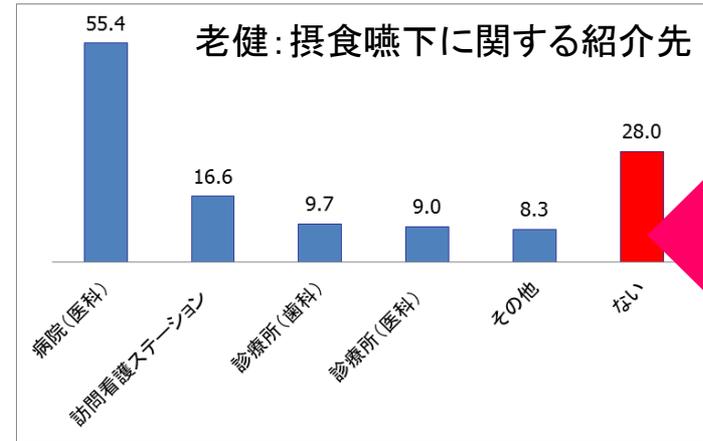
H26年度

病院(全国) : 820/8647件(回収率9.5%)

老健(全国) : 289/3872件(回収率7.5%)



紹介先不要
31.4%



紹介先不要
34.6%

紹介先が存在しないにも関わらず，病院も老健も3割強が紹介先が不要であるとの返答。

H27年度

特養:893/6369件(回収率14.0%)。紹介先がないとしたものは42.4%。

紹介先が存在せず，紹介先が必要(55%)

専門的な評価が必要，専門的なりハビリの指導を受けたい，嚥下の状態を把握したい，職員だけでは不安，誤嚥性肺炎を減らしたい，知識や技術を習得したい，家族の希望など

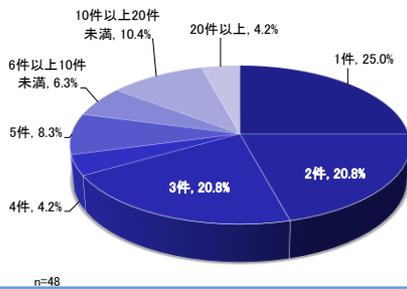
紹介先が存在せず，紹介先が不要(45%)

特養なので家族が望まない，施設内で対応できている，認知症・廃用なので検査無理，対象者がいない，入居者が希望しない，必要と思わない，効果がない，患者の負担になる，指導してもらってもマンパワーがない，経口困難になったら看取りにシフトしているなど

病院SW・施設に対する医療資源名簿・マップ およびガイドブック活用の実証

研究班で運営するウェブサイト「摂食嚥下関連医療資源マップ」上で公開している医療資源名簿・マップおよびガイドブックの活用状況を調査するため、登録施設約500件、および日本医療社会福祉協会会員約800名を対象にアンケート調査を行っている。

【ウェブサイトを利用した連携の実現件数】



連携実現数	回答数	比率
1件	12	25.0%
2件	10	20.8%
3件	10	20.8%
4件	2	4.2%
5件	4	8.3%
6件以上10件未満	3	6.3%
10件以上20件未満	5	10.4%
20件以上	2	4.2%
総計	48	100.0%

【ウェブサイトを利用した連携が実現しなかった理由】

選択肢	回答数	比率
摂食嚥下機能支援を必要とする患者さんがいなかったため	28	16.3%
支援を必要とする患者さんはいるが、他の方法で解決できたため	100	58.1%
他施設と連携することに組織の理解が得られなかったため	8	4.7%
求める情報がどこに掲載されているのかわかりづらかったため	13	7.6%
求める情報がなかったため	18	10.5%
その他	11	6.4%
総計	178	103.5%

本ウェブサイトを利用した患者支援の連携実現件数を調査した。
またサイトを普及し、活用を促進する上での課題を利用者より抽出した。

軽度嚥下障害者に対する嚥下機能検診

H26年度

新宿区で用いられている飲み込みチェックシートを入手.

H27年度

千葉県八千代市において、本チェックシートを使用した検診事業を行うことができたため、達成済み.

新宿こくくプロジェクト ツール① 飲みこみチェックシート Ver.1

氏名 _____ 年齢 _____ 性別 _____

身長 _____ cm 体重 _____ kg

1 肺炎と診断されたことがありますか? A. 繰り返す B. 一度だけ C. なし
2 やせてきましたか? A. 明らかに B. わずかに C. なし
3 物が飲み込みにくいと感じることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
4 食事中にむせることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
5 お茶を飲むときにむせることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
6 食事や食後、それ以外の時にものどがゴロゴロ(たんがらんだ感じ)することがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
7 のどに食べ物が残る感じがすることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
8 食べるのが遅くなりましたか? A. たいへん B. わずかに C. なし
9 硬いものが食べにくくなりましたか? A. たいへん B. わずかに C. なし
10 口から食べ物がこぼれることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
11 口の中に食べ物が残ることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
12 食物や飲み物の液が胃からのどに届ってることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
13 胸に食べ物が残ったり、つまった感じがすることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
14 夜、咳で寝られなかったり目覚めることがありますか? A. しばしば B. ととき C. なし
15 声がかすれましたか(話しながら声、かすれ声など)? A. たいへん B. わずかに C. なし

医師、大規模医療機関、または介護施設で検診を行うこと

Aが1つ以上ある場合、かかりつけ医や訪問看護師などに相談しましょう(ツール②へ)
Bが1つ以上ある場合、今後も定期的に飲みこみチェックシートをしましょう。

© 2024 新宿こくくプロジェクト | http://www.city.shinjuku.lg.jp/hokokukenkou/01_00000.html からダウンロードできます。

ロードマップ

1年目

2年目

3年目

① 医科診療所(有床・無床)・歯科診療所に対する簡易な医療資源アンケート調査

② 訪問看護ステーションに対する医療資源アンケート調査

③ 行政・保健所に対する有効事例の存在および新規連携事例希望アンケート調査
(こちらは遅延により二年目に移行した)

④ 有効な連携事例調査
(班員所属のNPOなどより拾い上げ可能)

⑤ 病院SWIに対する退院時外部医療機関への連携実態と連携希望有無アンケート調査

⑥ 施設に対する外部医療機関からの食支援実態と連携希望有無アンケート調査

⑦ 軽度嚥下障害者に対する嚥下機能検診表入手
(作成から入手に変更した)

⑧ 医療資源名簿・マップおよびホームページ作成と周知(配布から周知へ変更)
(主に行政、その他SW・施設へ)

⑨ (行政・保健所で)新たな連携事例をとりたところと有効な連携事例のマッチング
(計画の遅延で幅を広げるためここでは行政に限らない)

⑩ 有効連携事例ガイドブックおよびホームページ作成と周知(配布から周知へ変更)
(主に行政、その他SW・施設へ)

⑥ 特養に対する外部医療機関支援実態と連携希望有無とアンケート調査
(1年目に行えなかったため)

⑪ 他の地域における嚥下機能検診表入手
(特定のから他のに変更した)

⑮ GIS(地理情報システム)を利用した医療資源名簿の地図解析(追加)

⑫ 行政向けの連携構築のための研修会開催
(グループワーク・見学実習を用いた新たな地域連携事例のバックアップから修正)

本日はこの部分にあたるイメージです。
地域連携のお役に少しでも立つことができれば幸いです。

をガイドブック、ホームページへ追加